

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077300244		
法人名	有限会社 ひがし		
事業所名	グループホームたかみ		
所在地	うきは市 浮羽町高見1750-1		
自己評価作成日	平成28年9月29日	評価結果確定日	平成28年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

気候に合わせて花見や散歩をしている。また季節ごとにイベントを行っており、例えば、そうめん流しや七夕やクリスマス会等を行っている。また、地域に開かれた事業所を目指しており、お互いの文化祭への作品の展示や見学・地域の子供たちの公民館での通学合宿のときは、お風呂場の貸し出しをし、交流会を行っている。地域の敬老会にも機材の提供なども行っている。ボランティアで、入居者との話し相手や将棋や囲碁の相手をしてくれる地域住民もいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年10年目を迎えた「グループホームたかみ」は2階建ての2ユニット事業所で、近隣に田園風景や耳納連山が望め、隣にJRの線路が走り「なつ星」も見えるが、静かな佇まいの中にある。事業所内の植木も多く、季節の移ろいを感じられるなか週3回は近隣の散歩を行ったり、外出の機会も多い。市内の系列グループホームの多目的ホールで合同の敬老会を開催したり、春・夏まつり等での地域交流がある。多目的ホールの一角では月1回オレンジカフェを地域包括支援センターと一緒に開催し、地域の人に来て貰っており、職員も1～2名行き手伝っている。施設内も明るく開放的で、午前中は集団リハビリを行い、その後も個別リハビリをしており、ここ数年、入居者の介護度は下がらずキープしており、表情も明るい。事業所に地域の人にもっと気軽にきて貰いたいと試みられており、今後も地域密着型施設として存在感を深める事が期待出来る事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内に理念を提示し、毎朝理念の唱和をしている。	昨年職員全員の意見等を取り入れてグループホーム独自の理念の「住み慣れた地域の中で助け合い生きがいを見つけ楽しく暮らせる第二の故郷でたのしく生活できるように感謝の気持ちでみんなで支縁します」と一緒に行動指針を作成した。各階のホールやケース記録内にも貼っており、毎朝申し送りで唱和し、理念を共有し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の中学校の職場研修受け入れをしたり、ご近所付き合いが続くように、面会を受け入れ、食事会があるときは入居者を送迎したり、お手伝いをしている。	職員が地域の清掃活動に参加したり、近くのアパートの子供が夕方に遊びに来たり、日常的な交流がある。事業所で餅つきをした時は近隣にお配りし、近くの畑の人からの作物の差し入れを頂くこともある。年1回小学生の高見公民館のお泊り会がある時は事業所で風呂を提供している。系列グループホームの多目的ホールで合同の敬老会をしたり、囲碁等の交流も行なわれており、地域との交流は積極的に進められている。	地域との交流が積極的に進められているが、事業所が主要道路から少し入った所にあり、近隣の人は判るが、事業所の存在を知らない人もいる。国道に看板設置も行ったが、地域の人に気軽に事業所に遊びに来て貰いたいと意向もあり、今後も地域活動に参加したり、情報発信や自治活動への関わりなど取組みが幅広く行われ、地域の人に向けて情報発信をされて行かれる事を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に、「たかみたより」を発行して、配布認知症についてのコラムを読んでもらったり、地元の福祉委員の交流会をしたり、系列施設で行っている認知症カフェに参加して、認知症予備軍の方に予防をよびかけている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地元の市議会議員より、地域のイベントの情報の提供を頂きながら、参加させていただいたり、またこちらからもイベントへお誘いして、入居者との交流をもらっている。またどういった事業所になったほうがいいか意見を真摯に受け止め、サービス向上に活かしている。	定期的に運営会議が開催されており、議事録は玄関に設置し、いつでも閲覧出来る状態にしている。2か月に1回、事業所だよりの「たかみだより」にも掲載し、家族にも配布している。運営会議を通して、徘徊時の対応や、夜間のいたずら電話の対応方法も教えて貰い、事業所の運営に役立てている。	昨年は防災訓練やクリスマス会等の行事と組み合わせ、家族に運営会議の参加を呼び掛けたが参加は少なかった。今後家族の参加に向けてのアンケートを取ったり、家族とも相談して、参加体制を整えてはどうだろうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。また、こちらの相談にきた方を市の相談窓口までつなげたり、サービス向上になるようにアドバイスをもらったりしている。	生活保護受給者は現在はいないが、過去には受け入れており、来年度はグループホームで共用型デイを行う予定で市町村とも相談を行っている。系列グループホーム内で月1回オレンジカフェを包括支援センターと一緒に経営し、地域の人が40人近く来訪しており、事業所の職員も1～2名手伝いに行っている。市や町に相談に行く事も多く、連携は出来ており、協力関係の構築は出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム部会で、身体拘束や虐待防止の研修を行い、経営者やスタッフを含め取り組んでいる。	グループホーム部会の研修会で、毎年身体拘束の研修会が開催されており、職員のほぼ全員が参加し周知している。玄関は施錠しておらずセンサーで対応し、スピーチロックも行わない様に注意し合っており、徘徊の入居者には職員が付き添って散歩し落ち着いたら戻っている。徘徊ネットワークに入っており、年1回はメールで発信訓練等を行っている。		

H28自己・外部評価表(GHたかみ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6月に身体拘束と虐待防止の研修にスタッフ全員に参加してもらった。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がついている入居者の受け入れもしている。また、それらが必要であると、スタッフや管理者が判断した場合は活用できるように、勉強し支援している。	グループホーム部会の研修会で、毎年1回は自立支援事業や成年後見人制度の研修会が開催され、入居前に取得された方や、事業所内で成年後見人制度を取得された方もおられ、職員もある程度の理解は出来ている。1階にパンフレットも設置しており、管理者に繋げて説明できる体制も整えられている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をさきゆっくり説明後に契約を結ぶようにしている。過去に契約を変更した場合は書面でご案内後説明会を開催して意見をいただきご納得していただいた。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランを立てる場合はご家族と本人のご意向をを踏まえた上おこなっており、それにそった介護をおこなっている。運営推進会議には家族の皆さんにご案内を行っており、2か月に1度はご意見をいえる機会を設けている。	家族の面会も多く、面会時に聞き取りを行なっているが、大体は個人的な意見でその都度対応している。家族の意見から、事業所内で化粧品会社による化粧を取り入れて、入居者に御化粧し写真を撮ったりした事もある。家族の方から餃子づくりを教えて貰い、その後の餃子づくりに取り入れており、事業所の運営に役立て、反映させている。	面会時の家族からの意見は、入居者の個人的なものが多く、運営に関しての意見は少ない。運営会議議事録の報告を「たかみ便り」に掲載しており、「たかみ便り」で運営会議開催の案内を行う時に、次回の議題を書き込んで、意見を貰う様にしたり、工夫をされてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度定例会を行い、少なくとも1回は発言するように、と呼びかけている。	月1回の定例会議の後に各ユニットに分かれて会議を行っており、パート職員も出席し意見も言い易い。申し送りの時間短縮の提案も受け入れて試みたが、やはり以前の方が良かったと元に戻した事もあり、迅速に運営に反映されている。年2回自己評価で個人面談もあり、個別の意見や相談をする機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	7月と12月に個人面談をおこない目標の達成や新たな目標の設定などはなしている。そして個人になった仕事や役職それにあった給与や賞与などこまやかに聞き取りをおこないあうようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用面接は法令順守の上おこなっている。個人の意見や能力にあった役職や職員配置になるように、配慮している。	20歳～60歳代迄の職員が就労しており、料理やパソコン等で「たかみ便り」を作成したり、職員の能力を生かして業務にあたっている。職員の研修も就労中に事業所の車で行く事が出来、シフトの協力体制もできており、休みも取りやすい。昨年より、夜勤者の他に、20時～6時迄の宿直職員を置き、何かあった時には手伝う体制が整えられ、配慮されており、働き易い職場になっている。	

H28自己・外部評価表(GHたかみ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加をうながし、入居者の人権が守られるように、職員の人権教育を行っている。	定例会議で、管理者が事業所理念を含めて、実践や対応ができていないか問うたり、人権や認知症の等に関しての話もケアマネジャーを通して、職員に伝達もしている。	ケアマネジャー等が、定例会議で事業所理念や認知症に関する伝達を行っている。さらにケアマネジャーの実務者研修の資料を通して、内部に伝達研修や回覧を行ったり、DVD等のレンタルを利用して、内部への人権教育に取り組まれる事に期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力にみあった研修に行けるように、シフトを考慮している。介護福祉士やケアマネ合格の場合はお祝い金を出し、資格取得を推奨している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	うきは市内のグループホーム部会での交流会をおこなっており、同じ悩みの共有化によりよりよいサービスを提供できるようにしている。また、社長が別法人で介護事業をおこなっており、そこでの職員との交流も今後行っていきたい。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族と本人に面談を行い、希望要望を取り入れている。また、過去の生活履歴を知ることによって、本人の安心が得られる場合があるので、重点的に聞くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にもよく聞き取りをして、ケアプランに反映させている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリングを行い、本人の希望を聞き、家族の要望を取り入れケアプランに取り入れている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と親子孫の関係になれるように、入居者から裁縫を教えてもらったりしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントにも参加できるように、事前にお知らせをして、一緒に参加出来るように体制をとっている。		

H28自己・外部評価表(GHたかみ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の人の面会を受け入れている。また近所の人たちとの食事会等への参加にもお手伝いをしている。ドライブなどで、元住んでいた場所に行ったりしている。	入居者の近所の人が遊びに来たり、近所の人との食事会に事業所送迎で出掛けたり、自宅が気になる方や、一人暮らしの方の洋服を取りに、職員送迎で出掛けている。家族送迎で美容室に出掛けることもあり、馴染みの関係の継続は出来ている。編み物の好きな入居者は毛糸のたわしやマフラーを作成したり、縫物の得意な方は雑巾や刺し子をしたりと、特技を生かして趣味の継続も行われている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事の時間は皆さんに話がいくようにスタッフが気を配り支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は特にしていない。今後はしていきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者と話し、意向を把握している。また希望が何うのが困難な場合は家族から、過去の暮らし方からヒントをもらうようにしている。	独自のアセスメント表を使用し、状況変化時や半年の短期のプラン見直し時に、アセスメント表の見直しを行なっている。家族からは面会時や電話等で担当者が聞き取ったり、聞き取りが難しい入居者は、日々の生活の中や、申し送りの報告等で聞き取りし、本人本位の意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートに目を通し、その人の把握に努めている。アセスメント力の向上に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理なく、残存機能を活用してもらいながら、すごしていただけるように支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファを行い全職員が目で見入居者を見て、その人にあったケアの提供に努めている。	早出職員が1日の流れの中で、毎日の記録を記入し、1カ月に1回担当者が評価している。3カ月毎にはケアマネジャーが総評を記入し、医師や看護師等にも相談し留意点を聞き取り、更新時や状態変化時に、担当者会議を行い、介護計画を作成している。	定期的に担当者会議が開催されており、関係者と話し合い必要な情報を得ているが、記録がされていない。担当者会議議事録に医療関係者等からの意見も記録に反映される事が望まれる。

H28自己・外部評価表(GHたかみ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェック表・ケース記録を活用し検討見直しをしている。また記録は個人個人にまとめてファイルしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会時に意見や要望などを聞き、それを支援やサービス提供に反映するようにしている。例えば通院の支援や、家族での外出の支援等		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉委員のボランティアでのお楽しみ会をしてもらったり、囲碁や将棋の相手をしてもらうボランティアをしてもらったり。文化祭での行き来をしたり、彼岸花や菜の花ひまわり畑へのドライブなど地元の観光スポットにでかけたりと楽しめるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診には情報の提供など支援している。	入居前からの掛かり付け医を利用されている方もおられ、提携医を利用される事も自由である。月2回提携医の往診があり、週1回訪問看護師による体調管理も行われ、訪問歯科や訪問マッサージも利用できる。専門医受診は家族や職員が送迎し、家族や医師からの聞き取りは医療経過に記録され、朝夕の申し送りで職員間で共有もしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づきがあった場合は申し送りで、その職員がいなくても看護師や医師に伝えるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはアセスメントやケース記録などを提供し、事前の情報提供を行っている。またお見舞いや面会を行い、早期退院できるように情報の把握に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期になりつつある入居者の家族と医師とともに話し合い、今後の方針を決めていっている。家族の支援協力も必要となるので、スタッフと共にいい看取りができるように努力している。	看取りの指針があり、入所時の契約時に家族や入居者に説明し同意を受け、看取りが必要になった時に再度同意を貰っている。医師から家族や職員に、心がけや気を付ける事の説明を受け、ケアマネジャーが看取りのプランを立て、職員全員で看取りに向けての内部研修を行なっている。家族の協力の下で対応する事になっているが、ギリギリで入院となったりで、まだ看取りは行っていない。	

H28自己・外部評価表(GHたかみ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年には行っていないが、2年に1度救急救命の講習を受講している。初期対応においては、社長が講師になり、今後行っていく予定。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1度避難訓練を行っている。地域の方や消防署の協力体制がとれるように努めている。	半年に1回避難訓練を行い、年1回は消防署立ち合いで主に夜間、火災想定した避難訓練を行っている。職員も近くに在住しており、地域の方や系列事業所の協力も得て、避難訓練を行っている。消防士より、2階は何処に避難したら良いか、や地震時の対応法も聞き、終了後は定例会議で反省等をして次の防災訓練に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベート空間への配慮や言葉使いに気を付けている。往診の受診や着替えなどは居室で行うようにしている。	不定期だが、職員が外部の研修会に参加し、定例会で内部に伝達研修をおこなっている。管理者からも定例会で、言葉掛けの例を一部抜粋して挙げて、職員に伝え、一人ひとりを尊重した声掛けを行っている。写真利用の同意も取っており、リビングに外出時等の写真の掲示も行なわれている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どこにドライブにでかけたいかの意見をきいたり、おやつや食事のメニューの決定に日常会話から聞き取るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせて、朝が苦手な人がゆっくり朝食を召し上がっていただけるように、時間差でも対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットで、おしゃれや身だしなみがきれいにできるように支援している。またお出かけの際はオシャレできるように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事を心がけ、配膳やテーブル拭きなどを手伝ってもらっている。できる方は食事のあと食器を運んでもらっている。	昼夜は業者のおかずのレトルト食品等を利用し、それ以外は買い物に行き購入している。おかずをキャンセルして手作りの食事に変更する事もあるが、レトルト食品等を温めたり、追加でおかずを作ったり、朝食や汁物や御飯を、職員が調理している。入居者も芋の皮むきや畑のネギを整えたり等の手伝ったり、お花見の弁当を注文したり、弁当を作って持って行っている。職員も一緒に同じ食事を会話を楽しみながら食べられている。	

H28自己・外部評価表(GHたかみ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・水分量のチェックを毎食行っている。1人1人のリズムに合わせ食事の時間をずらす、工夫をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄・口腔内の残物のチェックを行っている。又個人の状態に応じて訪問歯科診療も取り入れている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めてトイレ誘導を行っている。可能な限り布パンツで対応している。	グループホーム部会で年1回、オムツやパットの当て方等の勉強会を行っている。入居者の排泄チェック表を個別に作成し、自立している方には、後で聞いて記入している。トイレ誘導が皆に判らない様にさりげない声掛けで誘導し介助している。自立支援に向けて意欲的に取り組んでおり、パット使用や紙パンツ使用の方が布パンツに変更となり改善されたこともあった。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行う。又、簡単な体操へ参加もうながしている。DRとの連携をとり、下剤の適切な服用も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を基本としているが、本人の意向、体調のバランスを考えて入浴を行っている。	足がゆったりと伸ばせる大き目の浴槽で、毎日午後4～5名が入浴しており、ゆったりとした個浴でかけ流し湯で、季節によりゆずを入れて楽しんだり、シャンプーや石鹸等の持ち込みも自由である。職員が皮膚の管理をしており、かゆみ等に軟膏塗布している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活パターンを考えて日中でもベッドで昼寝をして頂いたり、夜はゆっくり休めるようにやさしい光の夜光灯を使用している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についてはスタッフ全員で確認あっている。症状の変化をDRに伝えて対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出が大丈夫な方は買い物をしたり、敬老会や正月はお酒を飲んだり、又天気の良い日は外出したりしている。		

H28自己・外部評価表(GHたかみ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	知人や家族の送迎により外出を楽しんでいる入所者もある。また、施設の買い物に同行してもらったり、季節に合わせてドライブの計画をたてて出かけている。たまに散歩にでかける。	家族が毎週迎えに来て自宅外泊される入居者も2名程度おり、年1回はJRに乗って出掛けたり、季節の花見には2ユニット一緒に出掛けることがあり、祭り等の外出も多い。月1回以上ドライブに出掛けており、週3回程度は近隣の散歩を季節を感じながら行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は苑で管理をしているが、外出の際は個人個人で財布を持ち、買い物をする。全員ではない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1度、たかみ便りと共にご家族への手紙を書く入居者もある。電話も自由にかけられるのうに支援して。年賀状を家族に書いてもらうように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者とスタッフで作った季節の折り紙などの作品を飾ったり、植物を置いたりしている。又個々にクッションを椅子に敷きゆつくり過ごしていただいている。	1・2階の各ユニットは同じ作りになっており、南向きで広いリビングの1角に畳の間があり東側に事務所がある。事務所からリビングが一望でき、死角が少なく見守りがし易い作りで廻廊式になっている。リビングは明るく、窓からは雄大な耳納連山や田畑が展望でき、季節の移ろいが判る。施設内はハロウインの飾りや外出時の写真が飾られ、玄関や階段にも季節の生花が飾られ、暖かい雰囲気となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の数箇所に椅子やソファを置き、1人、又は数人のグループで集えるように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たくさんのものは置けないが、家族の写真やなじみのタンスなどを置き、落ち着ける工夫をしている。	居室はフローリングや畳の間があり選ぶ事が出来、ベットやクローゼットやエアコンがある。自宅で使用していたものを持って来て貰っており、持ち込みは自由で、テレビ・ラジオ・人形・整理ダンス・家族の写真や位牌等も持って来られており、思い思いの部屋づくりがされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	雑多に物を置かずに、車椅子の自走を可能にしている。浴槽・トイレの場所が分かる様に大きく書いている。配膳の手伝いが出来るよう全てに名前を書いている。		